

作成日 令和5年1月31日

セメスター留学報告書

標記について、下記のとおり報告します。

記

○基本情報

氏名		所属	
学籍番号		留学期間	令和 4 年 9 月 ~ 令和 4 年 12 月
留学先国・地域	カナダ・マニトバ州・ウィニペグ	留学先(学校)	マニトバ大学

○報告内容

1. 留学前準備について(留学に参加した理由、留学の目的・目標 等) ※300字程度以上が目安
中学生の時に2週間のカナダホームステイを経験し、それ以降英語や海外に興味をもつようになりました。より長期の留学を大学在学中にすることが夢だったため、今回のセメスター留学プログラムに参加しました。留学の目的は、自分の英語力のレベルを知ることとその向上、また、現地での様々な異文化体験を通して人間的に成長することです。海外で働くことにも少し興味があつたため、就職活動に関するヒントを得たいという思いがありました。また、日本の受動的と言われがちな学習スタイルとよく比較される海外の学習スタイルも体験してみたかったです。留学中たくさん「予想外」の出来事に出会うことで自分の視野を広げ、日本では得ることができない体験を期待して臨みました。
2. 留学中に心がけたこと、努力したこと(授業、日常生活、留学中の活動 等)
留学中に心がけたことは、全ての機会に対してYesと言って参加することです(よほどの理由がない限り)。毎日学校の課題や家事などやることがある中で、ホストファミリーや友達からお出かけを誘われたりすることがたくさんありました。私は現地で「人との繋がり」を大切にしたかったため、そうした誘いや人と関わるような機会の優先順位は常に一番上に置き、学校やホームステイ会社主催のイベントも積極的に友達を誘って参加しながら生活していました。特にlanguage partner programでは、週に1回以上現地に住むパートナーと会って会話をしました。努力したことは英語の勉強です。クラスメイトは既に英語圏に何年も住んでいたり、現地でアルバイトをしていたりするような、いわゆるSpeakingに関してはネイティブ並の人たちがほとんどだったため、自分のレベルとのギャップにとても苦労しました。はじめは先生の説明やディスカッション中何がどう進んでいるのかも分かつてないような分かっていないような状態で、途中で何度もクラスを変更しようか迷いましたが、必死にくらいつきました。分からないことはすぐに質問する、また、スラスラ言えなくとも積極的に発言するといったことを心がけることで、気が付いたらSpeakingだけでなく、人前で発表するということに対する苦手意識もどんどんなくなっていました。また、それ育ってきた環境やその情勢が異なるため、自分の価値観は押し付けないように意識して生活していました。
3. 留学の成果について(留学の目的・目標の達成具合、新たに発見したこと、感じたこと 等) ※300字程度以上が目安
私はもともとプレゼンテーションなど人前に出て何かすることが恥ずかしくて苦手で、そういった機会を遠ざけてきました。しかし、今回の留学を通してそうした苦手意識はなくなり、最後のgraduation ceremonyでは全校生徒や先生保護者総勢70人の前で5分程度の英語スピーチができるまでになりました。また、その役目を強制されたのではなく自ら引き受けたことが自分自身、成長を感じました。新たに感じたことは、政治参加、興味関心、自己発信の大切さです。今まで政治は自分とはどこか遠い存在のものだと思っていましたが、戦争の当事者である友達のリアルな声を知ったことで、とても関心をもつようになりました。また、それを発信することの重要性も学びました。発信することについては、政治に限らず日常生活でも大切さを感じました。現地では言葉でどう伝えるかが重んじられており、日本のような相手の気持ちを察したり汲み取る文化はありません。授業中も間違っていたり正しい根拠がなくてもみんな自分の考えを自信を持って表明していました。自分自身の芯をしっかりと持ち表現することの必要性を学びました。

留学先国・地域	カナダ・マニトバ州・ウィニペグ	留学先(学校)	マニトバ大学
4. 留学で学んだことを今後、どのように活かしたいか ※300字程度以上が目安			

この留学を通して、良い面でも悪い面でも、今まで当たり前だと思っていたことが当たり前ではないということを学びました。

また、仕事に対する考え方を変わりました。現地の多くの人にとって仕事は生活のごく一部で、趣味や旅行などに割く時間の方が圧倒的に長く、それぞれが自分自身の人生を生きていました。こうしたまわりの人達のハングリー精神と将来設計は私にとってとても刺激的でした。現地での日本の伝統工芸やアートに対する注目のされ方を知り視野が広がったことで、そうした縮小しつつある日本の伝統文化を保護して広めるような活動に興味をもちました。どんな分野に進んでも、自分自身の軸を持つこととまわりの環境に適応する柔軟性は、今後生きていく上でとても大切になると思います。今回学んだこうしたマインドを忘れずに自分の生きたい人生を生きていきたいです。

5. 留学中の画像(お気に入りのスナップ) ※Excelの「挿入」メニューから「画像」をクリックし、挿入する画像を選択・挿入してください。1枚以上



写真の説明① クラスマイトとディナー



写真の説明② Thanks giving day



写真の説明③ 現地のクリスマスコンサート



写真の説明④ 最終日ホストマザーと空港でお別れ

6. 外国語での記述欄(留学先国・地域の言語で、留学中の生活、成果等について、自由にご記入ください。) ※英語150 words以上が目安

At first, I was really struggle with communication because of my poor English skill and cultural gap. At that time, I didn't know how important expressing own feelings by own self saying is, and Canadian prefer direct expression to indirect one. I was not used to express my feeling with using direct expression, so adapting Canadian culture was hard for me. To overcome this problem, I talked a lot with host family and friends, which helped me to be outspoken people. Also, I could learn new expression and casual phrase from them. During this term, I joined "Language partners program", which is meeting partner for 1 hour every week. Firstly, I thought this program is literally just doing that, but the real was not. My partner is from Vietnam, and she lives there for 4 years. She is very kind, polite and funny people. She showed me around the folks, Human Right Museum, and some of the photo spots around the downtown. And the other time, we cooked natos and cookie together and slept over at her house. Also, she always tries to understand what I'm saying and helped me when I was in trouble. What I learned from this program is not only improving English skill, but also sharing different culture is interesting and valuable.

I really appreciate everything related to my studying abroad.

7. その他(自由記述)任意で記述

留学期間中は辛いときもありましたが、いつも現地の人のあたたかさに助けられました。もちろん楽しかった思い出も数えきれないほどたくさんあります。カナダで過ごした毎日はとても充実していて貴重な経験ができました。行ってよかったと心から思います。国際交流課の方々をはじめ、留学をサポートしてくださった皆様ありがとうございました。